

# 風土記の丘の花だより<sup>162</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年11月26日)

花が日に日に少なくなって来ます。それで、これからの季節に咲くヒイラギの花を見に行ったら、まだその気配もありませんでした。先日、車で走っていると、雪をかぶったように満開のヒイラギを見かけたので、行ってみましたが残念でした。でも、その辺りがきれいな落ち葉でいっぱいでした。写真はナンキンハゼの落ち葉です。色



とりどりで本当にきれいです。ナンキンハゼは「ハゼ」と付きますが、ウルシ科のハゼノキとは関係なく、実がはぜる(裂けるように割れる)し、外来の木なので「南京ハゼ」と名付けられたのです。場所は修復古墳の一番下です。大きな木が2本ほどあります。辺りには落ち葉に混じって白い実も落ちています。黒い実が割れて中から白い種子がはじけ落ちるのです。



シロダモに花が咲いています。観察しやすいのは、坂道のアジサイの植え込みの手前、カキノキの所から左に入って少し行った所です。裏が白くて、3本の葉脈が目立つ少し大きめの葉です。赤い実も同時に観察出来ます。シロダモはクスノキ科の雌雄異株の木です。この木は実がなっているので雌株です。



チャノキ(茶の木)に白い花が咲いています。これを見ると「お茶もツバキの仲間なんだなあ」と実感できますね。たしかに花を見ると、ツバキやサザンカなどと同じつくりです。今から800年ほど昔に、僧栄西(えいさい)が中国から持ち帰ったと言われていました。昔は庭の隅や畑の脇などに普通に植えられていました。緑茶も紅茶も烏龍茶もみんなこの木の葉から作られます。



サネカズラの実がたくさんなっています。これは新池の西側のツバキに巻き付いたものです。別の名前をビナンカズラ(美男葛)といい、この木から採れる粘液を整髪料に使ったことが由来とされています。小さな丸い実がたくさん集まって一つの実になっています。シキミなどと同じマツブサ科の木です。 松下